



コープこうべ コミュニケーション レポート

2020

2019年度報告

年次発行の『環境報告書(エコレポート)』と『品質保証レポート』を
統合し、『コミュニケーションレポート』と改称しました。



コープこうべ
キャラクター
コーピー

INDEX

2019年度の6大ニュース	1
環境の取り組み	3
食品安全・品質保証の取り組み	7
CO・OP NEXT100の取り組み	11
ターゲット2030 × SDGs	13
コープこうべグループの紹介	14

2019年度の 6大 ニュース

プラスチック
使用に関する
基本方針

へらす

事業および組合員家庭で発生する
「使い捨てプラスチックの
使用量削減」を目指す。

目標 2030年までに
プラスチック使用量を
25%以上削減
(2017年度比)

コープこうべの
プラスチック使用量は

年間 **2439トン**



2020年度は
マイバッグ運動NEXTが
はじまります！

6月1日より全店舗ですべてのレジ袋の
無料配布を中止します。

代替・リサイクル

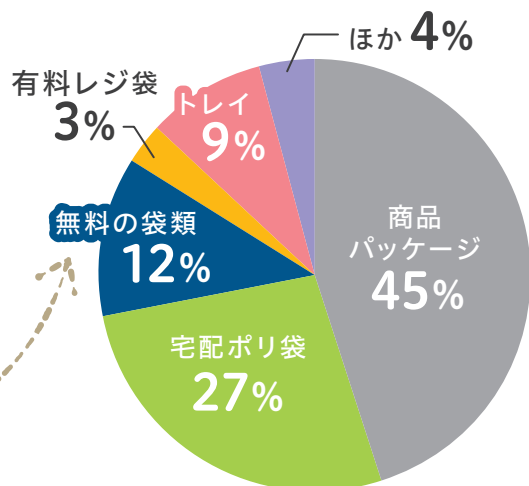
短期的に使用量を減らすことが
できないプラスチック製品については、
再生プラ、紙・バイオプラといった
代替素材(再生可能資源)への
切替え検討や
リサイクル活動を
すすめる。

ひろげる

消費者運動と
事業体の両面をもつ生協が
率先して取り組むことで、
地域社会全体の
取り組みへと
発展させていく。

1 プラスチック削減の 取り組みを強化

商品の容器包装やレジ袋など、組合員のくらしやコープこうべの事業においてプラスチックは多量に使用されています。これまでもマイバッグ運動やリサイクル活動に取り組んできましたが、持続可能な社会づくりに向け、組合員・職員の声に応え、「脱プラスチック」に関する基本方針を2019年2月に策定し、一歩踏み込んだ取り組みをすすめています。



コープこうべが使用しているプラスチック

2 第1回わたしのSDGs アクションコンテストを募集

持続可能な地域の未来づくりに取り組む活動を募集するコンテストに、120件の応募があり、一次選考を通過した6組が、2月24日生活文化センターにて取り組み事例を発表しました。実際の取り組み事例を紹介することで、SDGsの理解と取り組みの輪を広げています。



Facebookの紹介ページはこちら→



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



グランプリを受賞したSUMUSUMUさん

3 再生可能エネルギー100%施設が誕生

2020年1月から8つの事業所で使用する電気を、再生可能エネルギー100%に切り替えました。自家消費型太陽光発電による電気を使用し、太陽光発電での不足部分は木質バイオマス発電による電気(FIT電気)を購入します。

事業所 住吉事務所・生活文化センター・生活文化センター西館(神戸市東灘区)、コープデイズ神戸西(神戸市西区)、コープデイズ豊岡(豊岡市)、コープ西明石(明石市)、協同購入センター伊丹(川西市)、協同学苑(三木市)



*再生可能エネルギー100%施設の愛称



←再エネ100%施設のページはこちら

4 第3回 商品検査の日のつどいを開催

毎年10月1日を「商品検査の日」として開催する「商品検査の日のつどい」は、ひょうごまると健康チャレンジ2019「ほがらかウォーク in 東灘」(自由散策スタイルのウォークイベント)と同日開催しました。両イベントには、それぞれ約300人の参加をいただき、食の安全とともに、ウォーキングを通じて、健康づくりについて考える1日となりました。

「食品添加物・農薬の安全性」の講演では、“食品添加物のマイナスイメージがなくなった”“添加物が使われていても、安心して楽しく食事ができる”という感想や、「100歳まで歩ける体力をつけるコツ」の講演では、“背筋を伸ばしてすっきり歩いて、認知症を予防したい”といった感想が聞かれました。



5 正しい手洗い手順の普及啓発活動を推進

手洗いは食品衛生の基本の「キ」。食中毒だけでなく、感染症予防にも、とても重要です。さまざまなイベントを通じて「正しい手洗い手順」の普及啓発に取り組み、約1000人が参加しました。

学習会では、ご自身の洗い残しが多い箇所を知っていただくとともに、正しい手洗いの実践により「汚れ度」を示す数値が大幅に減少することを体感しました(手洗い時は30秒以上、2回洗いが効果的であることを紹介しています)。



正しい手洗い手順の体験学習

6 コープの洗剤環境寄付キャンペーン

コープの衣料洗剤の対象商品を1品購入ごとに、0.5円をWWF(世界自然保護基金)ジャパンへ寄付しました。洗剤に使われているパーム油の原料である「アブラヤシ」をつくる、インドネシア西カリマンタン州の小規模パーム農園の持続可能な社会づくりの活動を支援しています。



RSPO 認証※商品

※RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)が与える認証。環境問題や労働環境など働く人にも配慮し、適切に管理されたパーム油で作られた商品につけられるマークです。



対象商品の一例
co-op セフターE



©James Morgan / WWF-International



環境の取り組み

コープこうべの環境チャレンジ目標 エコチャレ2030

(2018年策定)

コープこうべでは、2030年に向けた環境チャレンジ目標を策定し、取り組みを推進しています。

2050年度には、
90%削減を目指す！

チャレンジ
1

事業活動における
CO₂排出量を半減！ (2013年度比)

重点施策

- 設備更新／車両更新
- 省エネチューニング
- 太陽光自家発電・自家消費
- 電気自動車・トラックの導入
- コープでんぎへの切替



チャレンジ
2

事業活動における
食品廃棄物を半減！ (2015年度比)

重点施策

- 店舗廃棄重量削減
- フードバンク等への食品提供拡大
- 食品リサイクル率向上



チャレンジ
3

環境に配慮したエシカルな商品やサービスの開発・供給推進！

重点施策

- 環境配慮型のエシカルな商品・サービスの開発・供給推進
- 地産地消の推進
- 容器包装の削減



チャレンジ
4

組合員とともに
エシカル消費を拡大！

重点施策

- エシカルな商品、エシカルな暮らしのあり方に関する学習・広報の推進
- 組合員とともにエシカル消費を拡大



環境の取り組み

<https://eco.coop-kobe.net>

コープこうべの環境活動

検索

データ集

<https://www.kobe.coop.or.jp/ecoreport/index.html>



地球温暖化防止と再生可能エ

地球温暖化、原発事故後のエネルギー問題に対して、コープこうべのエネルギー政策に沿って、省エネや再生可能エネルギー（以下「再エネ」）の普及・拡大に取り組みました。

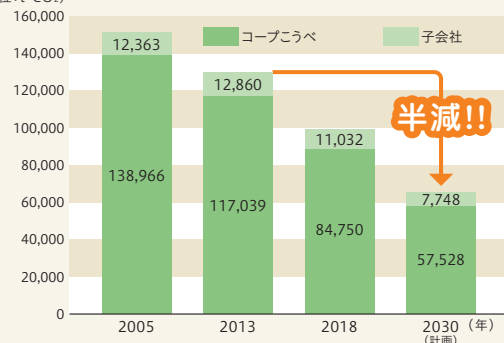
へらす

長期的なCO₂削減計画

環境に配慮した事業活動を通じて組合員のくらしを守る生協として、2030年までにCO₂排出量を半減（2013年度比）させる計画を策定し、取り組みをさらに推進しています。

2030年までのCO₂削減計画

(単位:t-CO₂)



つくる

コープこうべの太陽光発電と自家発電・自家消費を拡大

コープこうべグループでは、再エネの普及のために兵庫県と大阪府の30カ所で太陽光発電をしています。

また事業所の屋根に設置した太陽光パネルで発電された電気を売電せず、事業所で使用する自家発電・自家消費の取り組みを、コープ西明石、協同購入センター淡路でも開始しました。

※2020年4月現在、コープこうべグループが運営する太陽光発電の年間発電量は約860万kWh（一般家庭の年間電力消費量換算で約2400軒分）。



協同購入センター淡路



コープこうべのエネルギー政策

3つの方針

1 へらす

くらしや事業で
省エネルギーを進めます

- ①事業における省エネの推進
- ②くらしにおける省エネの推進

2 つくる

再生可能エネルギーを
利用した発電事業を進めます

- ①コープこうべが進める
発電事業の推進
- ②地域や組合員が進める
発電事業の推進

3 つかって ひろげる

再生可能エネルギーによる
電力供給事業を進めます

- ①コープこうべの施設で
再エネを使用する事業の推進
- ②組合員への
電力小売事業の推進

NEW

エコファームで ソーラーシェアリングを開始

2020年1月から、エコファーム（→5ページ参照）でコープこうべ初の取り組みとなるソーラーシェアリング※3を開始しました。発電した電気は「コープでんき」の電源として活用。地域でつくられた電気を地域でつかう“電気の地産地消”の取り組みをさらに推進していきます。

※3 ソーラーシェアリングとは、農地の上に太陽光パネルを設置して太陽のエネルギーを分け合うことによって、農業と発電事業を両立させることです。

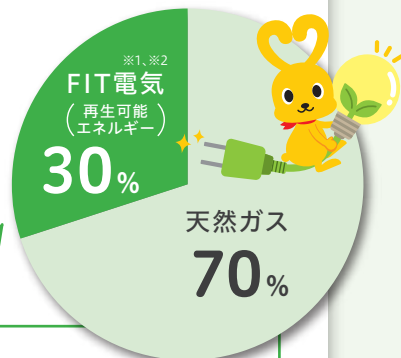


ソーラーシェアリング(エコファーム)

組合員への電力小売事業 (コープでんき)

再エネや、「より環境負荷の小さい電力を選びたい」という組合員の声に応え、2017年4月より組合員向けの電力小売事業「コープでんき」を開始しました。「コンセンツの向こう側」のことを考えて電源構成にこだわり、FIT電気(再エネ)約30%、天然ガス70%の電気をお届けしています。

コープでんきの
調達電力量(kWh)計画値
(2020年4月1日から
2021年3月31日まで)



地産地消の電源を拡大!

NEW



(株)日本海水赤穂工場
(バイオマス発電・兵庫県赤穂市)

NEW



一般社団法人西谷ソーラーシェアリング協会
(太陽光発電所・兵庫県赤穂市)

NEW

太陽光余剰電力の買取サービスを開始

2019年11月から、再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)の買取期間(10年間)が終了する組合員の家庭を対象に、住宅用太陽光発電の余剰電力買取サービスを開始しました。

地域でつくられた電気を「コープでんき」の電源として地域でつかう“電気の地産地消”をさらに推進していきます。



※1 FIT電気とは…再生可能エネルギーを普及させる制度として、電気の利用者全体で補助を行う「固定価格買取制度(FIT制度)」があります。この制度を利用して発電された再生可能エネルギー(太陽光、バイオマス等)の電気のことです。

※2 コープこうべがこの電気を調達する費用の一部は、コープこうべの組合員で電気をご利用の方以外の方も含め、電気をご利用の全ての皆様から集めた賦課金により賄われており、この電気のCO₂排出量については、火力発電なども含めた全国平均の電気のCO₂排出量を持った電気として扱われます。

再エネ電力をコープの事業所で使用

組合員家庭だけでなく、コープこうべの94事業所にも「コープでんき」を供給。さらに、2020年1月から8つの事業所で使用する電気を再エネ100%に切り替えました。（→2ページ参照）

再エネとリサイクルを 組合員と一緒に考えました

組合員や職員が「エネルギー&リサイクル」をテーマに、コープでんきの産地やコープこうべのリサイクルセンターを訪問し、見学・学習しました。2019年度は35企画1141人が参加し、学びました。



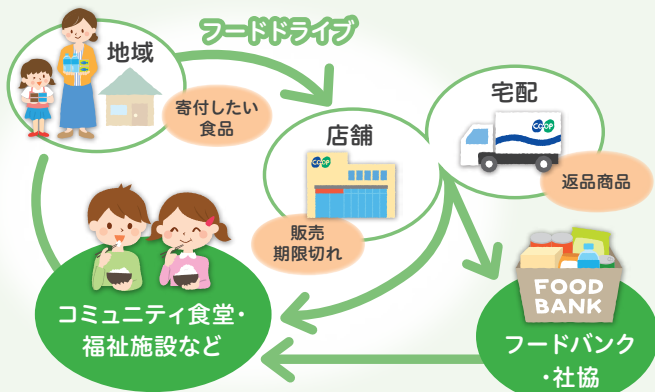
玉津リサイクルセンター
見学会の様子

食品ロス削減

食品ロスをはじめとする食品廃棄物を、2030年までに半減すべく取り組んでいます。
基本的な対策のほか、組合員や地域と力をあわせ、様々な施策がはじまっています。

フードドライブをはじめとした食を通じた地域支援

「やむなく返品となりお届けできなかった宅配食品」「販売期限切れの店舗食品」「家庭から持ち寄った食品（フードドライブ）」を、フードバンクや子ども食堂などに提供しています。フードドライブを常時受付する店舗は30カ所以上に増えています。



「てまえどり」を全店で呼びかけ

誰でも身近にできる食品ロス削減の取り組みとして、期限の近い食品や値引き品を購入する「てまえどり」を、全店で呼びかけています。



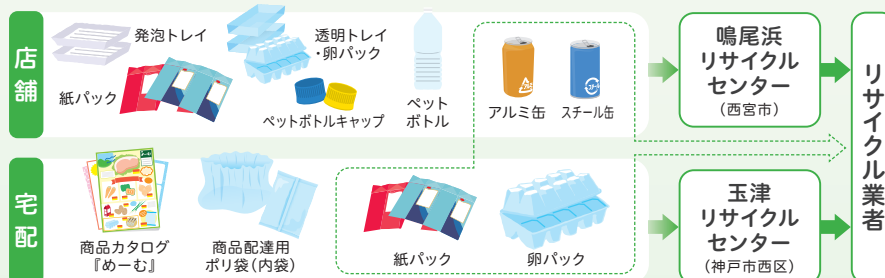
食品リサイクルの拠点
環境共生型農園
エコファーム
(三木市)

40店舗の野菜・肉の加工くずを回収・堆肥化するコープ土づくりセンターと、その堆肥で育てた野菜を再び店舗などに供給する(有)みずほ協同農園が一体となり、食品リサイクルループを構築しています。

容器包装の削減とリサイクル

「ものの命を大切に」のキャッチフレーズのもと、コープこうべではごみの削減と資源の有効利用を目的に1990年から牛乳パックのリサイクル回収をスタートしました。

現在、店舗では8品目、宅配では4品目を回収。リサイクル作業はおもに子会社の障がい者スタッフが担当し、皆さんの就労支援につながっています。



紙パックのプレス作業

グリーндаウンプロジェクト

羽毛は水鳥から採取される有限な資源です。需要の高まりに対し、羽毛資源は減少傾向です。約30店舗で不要になった羽毛布団・ダウンジャケットを回収し、再生メーカーで洗浄・精製した後は、再生羽毛（グリーндаウン）として、広く社会で有効利用されています。



エシカル消費

エシカルとは誰かの笑顔につながるお買い物。「自分のため」はもちろん、「自分以外のため」…そんな気持ちに支えられるエシカル消費。

これまでも、これからもコープこうべは4つの視点をたいせつにします。

／ コープこうべの4つの視点 ／



私たちのお買い物で…

公正な**社会**の
仕組みが作り出せたら

社会インフラの改善や
社会的公正の実現につながる



●働く場を作り、収入の安定や
子どもの教育機会を創出

私たちのお買い物で…

豊かな**地域**を
作り出せたら

地域の担い手や生産者の支援、
被災地域復興などにつながる



●地元の食材を利用することで、
一次産業を元気に

私たちのお買い物で…

地球**環境**を守り続ける
ことができた

持続可能な
社会づくりにつながる



●食べる人、作る人、作る環境に
配慮した食べもの作り

私たちのお買い物で…

人々の「生きる」を
支えることができた

くらしの問題の解決や
生きづらさを抱える人々への
支援につながる



●コープこうべの夕食サポート『ま
いくる』1食あたり0.5円を、「(公
財)コープともしびボランティア
振興財団」に寄付しています

食と環境のつながりに着目する学習

SDGsの目標12と14の2つの視点に着目し、連続プログラム「コープトレジャー」を開催し、親子14組30人が参加しました。さらに、豊かな海を取りもどすイベント「虹の仲間と海づくり」「虹の仲間と森づくり」「かいぼり」や兵庫県産野菜をアピールする「兵庫フェア」を季節ごとに特定の店舗で展開するなど、兵庫県漁連やJA全農兵庫と連携して取り組みました。



コープトレジャー「漁師体験」



兵庫フェア

まちづくり 海の豊かさ 陸の豊かさ パートナースhip



里地・里山での体験学習

耕作放棄地が増え、景観や地域の活力低下に危機感をもつ地域の住民が作る協議会と連携し、農業、食べもののことを学びながら地域活性化にもわずかもお役にたてればとスタートした「みんなの牧♥里プロジェクト」(大阪府豊能町)。植付け、収穫イベントのほか、家族やグループで、野菜を育てたり、援農をしたり、竹林整備を行うプログラムなどを展開しています。



コープこうべ環境基金

コープこうべの創立70周年を記念して、1992年3月に設立されてから、まもなく30周年を迎えます。兵庫県内で自然活動保護の実践・啓発活動や実証的調査・研究を行っている団体を助成しています。

2019年度は「実践活動部門」の25団体に
総額300万円を助成しました。

2019年度の助成先はこちら➡





食 品 安 全 ・ 品 質 保 証 の 取 り 組 み



たとえば
こんな取り組み

商品部

商品の企画・商談

お取引先に「商品仕様書」を提出いただき、点検管理を行います。

総合品質
保証室

品質管理交流会を開催

66工場・80人 参加

コープこうべのブランド「コープス」の取引先を対象に「品質管理交流会」を開催し、食品衛生や品質管理向上に向けた情報交流を行っています。2019年度は専門の先生方をお招きし「食品防御の考え方」や「ぼうちゆうぼうそ防虫防鼠の取り組み」について学習しました。

CRM推進

組合員の 声の検討

お問合わせなどの声を分析し、改善に生かします。

商品検査
センター

商品 お申し出調査

3597件 調査

組合員が購入した商品のお申し出に対して、原因究明と再発防止に向けた調査を行っています。

くらしの
情報
センター

商品に関する 組合員の声の受付

6万1121件 受付

年中無休で組合員のさまざまな声を電話などで直接お聞きしています。

商品に関しては、産地や原材料などのお問合わせや商品のお申し出を受付しています。



食の安全は、「フードチェーン（生産から加工、流通、消費するまでのつながり）」にたずさわるすべての人々の「バトンリレー」によって実現します。コープこうべは、これからもコミュニケーションを大切に「**食の安全のバトンリレー**」をつないでいきます。



商品検査
センター

商品検査

5962件 実施

コープ商品などの検査を行い、品質に問題がないか、約束通りに作られているかを確認しています。

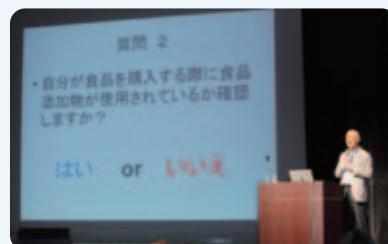
こんな取り組みも

「第3回商品検査の日のつどい」を開催

コープこうべは1967年、生活協同組合の中で初めて商品検査室を開設しました。

2017年、開設50周年を機に「10月1日は商品検査の日」を制定、食の安全を考える学習会「商品検査の日のつどい」を開催しています。

3回目となる今年は、講師に武庫川女子大学非常勤講師の伊藤澄夫さんをお招きし「食品添加物・農薬の安全性」について292人が学習しました。また、神戸常盤大学教授柳本有二さんによる「100歳まで歩ける体力をつけるコツ50」のお話もあり、“健康づくり”をテーマにした内容となりました。



伊藤澄夫さん
「食品添加物・農薬の安全性」の講演

「食の安全学校」がスタート

食品安全検定協会とコラボし、商品検査センターを試験会場とした「食品安全検定」資格取得の取り組みがスタートしました。今年は「食の安全学校」と題して職員が参加、26人が初級に合格しました。今後は、“食の安全に関する学習の場”として、組合員向けにも開催を予定しています。



第1回「食の安全学校」初回説明会

第4回品質管理交流会
(2019年8月)

製造工場の 点検・調査

コープス37工場
コープ商品1813工場実施

日本生協連と協力し、製造工場の品質管理向上に向けた訪問点検を行っています。



「コープスさざみねぎ」
製造工場の点検

フードスタンプ 検査による 店舗の衛生調査

97店舗 実施

衛生管理強化月間(6月～9月)に、フードスタンプ※を使用した店舗の生鮮品作業場の衛生調査を全コープ店で実施。改善が必要な店舗は訪問・指導を行っています。

※フードスタンプ…食品や調理環境の衛生状態を調べる寒天培地。

店舗の衛生管理

全店舗 実施
(コープリビング甲南除く)

店舗の衛生管理の確認のための巡回・点検を実施します。

総合品質
保証室

総合品質
保証室

商品検査
センター

商品検査センターの取り組み

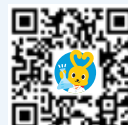
商品の検査（新規検査、取り扱い後の抜き取り検査）、店舗作業場の衛生状態を調べる調査、お申し出品の調査、科学的に正しい知識の普及に関すること、品質広報を担っています。

コープこうべ商品検査センターホームページでは、商品お申し出に対するこれまでの回答を「商品Q&A」として、また、食の安全に関するさまざまな情報を掲載しています。

<https://kensa.coop-kobe.net>

コープこうべ商品検査センター

検索



2019年度実績

検査分野	検査項目	検査件数
微生物	一般生菌数、大腸菌(群)、黄色ブドウ球菌など	4,184
残留農薬	一斉分析約440農薬	293
動物用医薬品	抗生物質、合成抗菌剤	26
食品添加物	保存料、着色料、発色剤、漂白剤など	53
品質管理項目	ヒスタミン、油脂の酸価、過酸化物質価など	20
アレルゲン	食品工場生産品のアレルゲン(乳成分・小麦など)	41
重金属	米のカドミウム	42
放射性物質	セシウム134、セシウム137	104
異臭	お申し出品の石油臭、薬品臭などの原因物質	122
異物	お申し出品の異物(プラスチック、金属など)の材質	1,077
合 計		5,962

調査等	内 容	件数
商品お申し出調査	お申し出品の調査・回答書作成	3,597
作業環境調査	フードスタンプ検査による店舗・製造委託先の衛生調査	1,218
栄養成分表示作成	コープスの栄養成分表示作成	285

イベント名	開催件数 参加人数
商品検査 センター見学	15件 365人
学習会 商品検査の日のつどい、 職員学習会、食の安全学校、 高砂のんびりウォーク、 子ども実験教室など	32件 2,290人
合 計	2,655人



CRM推進・ くらしの情報センターの取り組み

くらしの情報センターでは、365日年中無休で組合員の声を直接お聞きしています。
いただいたご意見・ご要望を店舗や協同購入センターに連携し、交換対応や調査を実施。
お申し出内容を分析し、コープこうべの運営や商品、業務などの改善に活かしています。

2019年度くらしの情報センターでは、約56万7千件の組合員の声を受けました。中でも宅配でお届けする商品や商品を掲載するカタログ(めーむ)、また店舗で購入された商品についてのお声は約25%を占めています。特に10月には消費税率引き上げに伴い、店舗や宅配の商品の消費税率について、2月からは新型コロナウイルスの影響で、マスクの品薄、欠品など、またデマ報道からトイレトペーパーのまとめ買いがおこり、欠品や数量制限などに対するご意見やご要望を数多くいただきました。

また、2019年度は「くらしの情報センターシステム」が一新。3月23日より、電話の受付を1件でも多く、また少しでも迅速に対応するため、電話受付時にお問合せ内容を4つの内容から選択いただき、それぞれの分野の教育を受けたオペレーターを配置し対応するようにしています。

2020年度も、組合員満足向上のために新たなお申し出チャンネルや組合員の声からの商品や運営の改善を進めていきます。

はかるたいせつ プロジェクトの取り組み



商品検査センター開設50周年(2017年)を機にスタートした「はかるたいせつプロジェクト」は4年目となりました。

<https://hakarutaisetsu.kobe.coop>

はかるたいせつ

検索



さまざまな“健康づくり”の 取り組みを開催

昨年に引き続き、ひょうごまるごと健康チャレンジ2019を開催。医療生協はじめ、兵庫県下の農協、漁協、森林組合等と連携し、8つのコースに5089人が参加しました。

今年は、神戸市や地元企業等と連携し、ウォーキングイベント「ほがらかウォークin東灘」を開催、約300人が参加しました。



チェックポイントの神戸酒心館

また、夏休みには、プロバスケットボールチーム「西宮ストークス」協力のもと「夏休み子どもバスケットボール教室」を開催、親子で150人が参加しました。



夏休み子どもバスケットボール教室

コープこうべでは、これからも諸団体と連携し、“健康づくり”の取り組みを推進します。

オンラインによるBDHQ 食習慣調査を行いました

「はかるたいせつプロジェクト たべるをはかる」の取り組みの一環として、兵庫県にお住まいのコープこうべネット組合員に協力いただき、オンラインによるBDHQ(簡易型自記式食事歴法質問票)調査を実施しました。直近1ヶ月の食べ方を15分程の調査ではかるものです。

調査回答参加者755人の1日あたりの食塩摂取量は、男性13.8g/日、女性11.1g/日となり、目指したい食塩摂取量(男性7.5g/日未満、女性6.5g/日未満;日本人の食事摂取基準2020年度版)に比べると、まだまだ多いようです。

「たべるをはかる」は“健康づくり”の第一歩です。

参加者には、個人の結果票とともに「赤信号」だった栄養素に関するアドバイスシートをお返しし、健康づくりをすすめています。



／コープこうべのビジョン／

ターゲット2030 1次案



テーマ1

人と人がつながり助け合える

ありたい暮らし・地域

- 「楽しく」「幸せ」な毎日を「笑顔」で送りたい
- 誰一人取り残さない地域社会でありたい
- 「しぜん」と「ゆるやかに」つながり合いたい

みんなが(で)できること

助け合える「仕組み」や「機会」を地域社会とともにつくる

- 人が出会える、くらしの拠点づくり
- 地域諸団体と連携した有償・無償の活動づくり

さまざまな資源をつなぐ

- 「人」「モノ」「コト」「情報」をマッチングするプラットフォームの役割

くらしのインフラとしての役割

- 多様なくらしに対応できる(次世代につながる)場

テーマ2

健康でいきいきとした毎日

ありたい暮らし・地域

- すべての人がいきいきと、自分らしく生きることができる地域社会でありたい
- 地域社会に貢献できる体と心の健康を保ちたい
- みんながつどえる・交流できる“場”でありたい

みんなが(で)できること

笑顔あふれる食卓の提案

- より良い“食”のあり方追求とくらしの提案
- 時代に即した食の提案と食文化の伝承

情報社会だからこそ誠実で分かりやすいカタチで伝える

- 食の安全に関する情報を正しく伝える
- 生活に関するよりよい情報をアップデートして伝える
- 多様な課題(介護・育児など)に対応した、食とくらしの提案

だれもが利用しやすい場の提供

- 楽しくつどえる“場”、だれもが利用しやすい“仕組み”づくり

『ターゲット2030』づくり

2019年度は、9092人の組合員・役職員から“2030年のありたいくらし・地域”についての声を聞き、以下の4つのテーマが見えてきました。

2020年4月には、その4つのテーマに関して、総代のみなさんから声をお寄せいただき1次案が完成しました。

新型コロナウイルスの感染拡大による社会の変化、新しい生活様式への転換をしっかりと受け止め、新たな視点、発想を取り入れながら、みんなで知恵を寄せ合って、いつまでもこのまちに暮らし続けたいと思える地域にしたいと思っています。



『ターゲット2030』とは

2030年、私たちが暮らす地域はどうあってほしいか。その中で、どんなくらしをしていきたいか。そんなことに一人ひとりが思いをはせ、2030年のありたい姿やその実現に向けて、私たちに何ができるかを示すビジョンが『ターゲット2030』です。

テーマ3

持続的なまちと自然との共生

ありたいくらし・地域

- 多様な“いのち”を育む豊かな自然を未来につなぎたい
- 限りある資源を大切に、地球環境を守りたい
- 人と自然が共生する地域でいたい

みんなが(で)できること

より良い消費行動・運動につなげる消費のスタイリスト

- 地球環境に配慮した、くらし方の提案
- 環境問題を学び、食品ロスをなくす取り組み
- 適量・少量、食育・住育の提案

地域資源を循環させるコーディネーター

- 活動エリア内の資源を活用し、生産者と消費者のモノ・コト・情報のシェアをサポート
- 限りある資源を取りつくさない食とくらしの提案

防災力NO.1の地域づくり

- 防災・減災の啓発と防災人材の育成
- 備えのある地域の拠点

テーマ4

みんなが安心できる

ありたいくらし・地域

- 子どもたちが明るい笑顔で暮らせる・学べる・遊べる地域でいたい
- 子育て、介護、障がいの不安があっても、暮らしやすい地域社会でいたい
- 世界が“平和”であり続けたい

みんなが(で)できること

安心して子育てができるよう世代を超えてつながる場づくり

- お困りごとを気軽に相談できる交流の場づくり(地域で、オンライン上で)

誰もが働きやすい社会づくり

- 時間や場所にしばられない働き方の実現
- 子育て、介護、障がいの不安があっても得意分野を生かした働き方が実現できる仕組みづくり

世界平和を願う運動体

- 誰もが参加し、取り組みやすい平和活動の枠組みづくり
- 平和とより良いくらしの実現を追求し続ける

これまでコープこうべでは「一人は万人のために、万人は一人のために」の理念の元、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めてきました。

そして今、次の100年を見据えたビジョン「ターゲット2030」の策定を進めています。

この動きは「誰一人取り残さない」社会の実現を掲げるSDGsの考え方と同様に、共に2030年を目標年度としています。

「ターゲット2030」とSDGsとの関連性の整理を行い、

それぞれ目標達成に向けた取り組みの具体化を進めてまいります。

2030年のありたいくらし・地域	対応する主なSDGs	共通するSDGs
人と人がつながり助け合える ●「楽しく」「幸せ」な毎日を「笑顔」で送りたい ●誰一人取り残さない地域社会でありたい ●「しぜん」と「ゆるやかに」つながり合いたい	貧困 1 貧困をなくそう まちづくり 11 住み続けられるまちづくりを 生産・消費 12 つくる責任 つかう責任	パートナリシップ 17 パートナリシップで目標を達成しよう
健康でいきいきとした毎日 ●すべての人がいきいきと、自分らしく生きることが出来る地域社会でありたい ●地域社会に貢献できる体と心の健康を保ちたい ●みんながつどえる・交流できる“場”でありたい	飢餓 2 飢餓をゼロに 健康と福祉 3 すべての人に健康と福祉を まちづくり 11 住み続けられるまちづくりを 生産・消費 12 つくる責任 つかう責任	
持続可能なまちと自然の共生 ●多様な“いのち”を育む豊かな自然を未来につなぎたい ●限りある資源を大切に、地球環境を守りたい ●人と自然が共生する地域でありたい	エネルギー 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 気候変動 13 気候変動に具体的な対策を 海の豊かさ 14 海の豊かさを守ろう 陸の豊かさ 15 陸の豊かさも守ろう	
みんなが安心できる ●子どもたちが明るい笑顔で暮らせる・学べる・遊べる地域でありたい ●子育て、介護、障がいの不安があっても、暮らしやすい地域社会でありたい ●世界が“平和”であり続けたい	教育 4 質の高い教育をみんなに 成長・雇用 8 働きがいも経済成長も 人権・平等 10 人や国の不平等をなくそう 平和 16 平和と公正をすべての人に	

SDGsとは…

(持続可能な開発目標)

2015年9月、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する、持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。そこに盛り込まれているのが、“誰一人取り残さない”社会の実現に向けた、世界を変えるための17の目標「SDGs(エスディージーズ)」。

途上国も先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる取り組みで、2016年1月から実施が始まっています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



コープこうべグループの紹介



(株)コープムービング

- 貨物運送事業
- 構内作業
- 地域担当業務
- 物流関係作業
- 店舗作業・検収業務
- 折込チラシセット業務
- 福祉用具
レンタル業務等



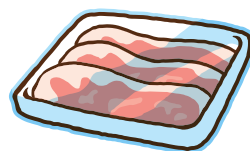
(株)コープフーズ

- すし、惣菜類、弁当の製造販売
およびレストラン事業
- まいくる・中学校給食などの
給食事業



(株)協同食品センター

- 農産品・水産品・畜産品などの
加工、盛り付け、包装、販売



(株)コープエイシス

- 各種保険
- 収納代行
- リース
- ツーリスト



阪神友愛食品(株)

- リサイクルに関する業務
- 食品の包装業務
- 知的障がい者の職業訓練



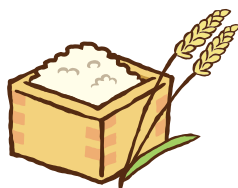
コープ住宅(株)

- 増改築リフォームの企画・設計・
施工・アフター管理



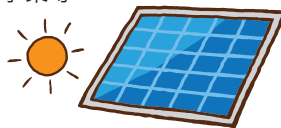
(株)コープライスセンター

- 精米業
- 米の加工・販売



(株)コープ環境サービス

- ビル保守管理・警備・清掃
- 駐車場管理
- ホームサービス事業
- 自然エネルギーを利用した
発電事業等



(株)コープベーカリー

- インストアベーカリー
「小麦の森」の運営事業
- 食品工場の製造部門、
管理部門受託事業



(株)ゆうあいサポート

- リサイクルに関する業務
- 清掃業務



(有)みずほ協同農園

- 農産物販売事業
- 農業体験学習事業
- 貸農園事業

